

インダストリ 4.0 セミナー開催

8月1日(月)、JJK 会館でビジネス変革委員会(委員長:島田俊夫 CAC Holdings 取締役会長)主催のインダストリ 4.0 セミナーが開催された。参加者は約120名。

冒頭、島田委員長から、本年5月30日～6月3日にかけて実施したドイツ Industrie 4.0 視察について以下の通り報告があった。

- ・ ソフトウェア(アルゴリズム)がビジネスモデルを実現するためのファンクションとして重要
- ・ デジタル社会はエコシステムのサービス全体を売る時代へ向かう
- ・ IT 産業と他産業がライバルになる可能性もある
- ・ ドイツ政府の構想力は大きく推進力は強い
- ・ 我々は第4次産業革命の波の情報収集者になるのではなくプレーヤーを目指すべき

次に経済産業省・西垣淳子クリエイティブ産業課長から「インダストリー4.0と我が国の対応の方向性」についての講演があった。我が国製造業は特に製造工程において強みがあると考えられるが、設計や保守など製品のライフサイクル全般にわたり、IoTなどを活用していく必要があること、各国間で製造分野のIoT連携が急速に進んでいるが、その中心になっているのはドイツであることなどが報告された。

続いて、JISA ドイツ視察ミッションでは不十分だった製造業における Industrie 4.0 の取組について、その中心となっているシーメンス(株)島田太郎専務執行役員デジタルファクトリー事業本部長、中堅企業として製造業の生産改革を支援しているベッコフオートメーション(株)・川野俊充代表取締役社長、SAP ジャパン(株)村田聡一郎 IoT/IR4 ディレクターから各社の取組状況が紹介された。

特に島田専務からは、製造業の競争力の原点として「より早く」「顧客の好みに合わせた製品を」「コストミニマム」で提供することが、Industrie 4.0 を進める理由であると紹介された。特にアンバーグ工場はデジタルエンタープライズの実験場として、「製造現場にデジタルプラットフォームがなければ先進技術は役に立たない」という信念のもと、多数の顧客に向け他品種少量生産でかつ自動化率 75%、不良品率が極めて少ないという成果をあげていることが紹介された。

ベッコフオートメーション川野社長からは、ユーザーが IoT と同社の製品群である PLC などの機器とセンサーを使って顧客ニーズにあった製品を作りつつ、メンテナンスにも活用している顧客事例の紹介、SAP 村田氏からはインダストリ 4.0 とはまさしく第 4 次産業革命であり越境バトルが常態化するとして、対応していくためには特に顧客の求めることは何かについてビジネスモデルを再構築する必要があると紹介した。顧客事例として、コンプレッサーメーカーが、「顧客が必要としているのはコンプレッサーではなく圧縮空気」という本質に着眼し、コンプレッサーは無料で設置した上で空気の使用料について従量課金制度とするビジネスモデルに転換したこと、これを支えるのが IoT と IT であることが紹介された。

その後会場との質疑応答も行われ、あらためてデジタルトランスフォーメーションへの対応を考えさせられるセミナーとなった。

(山本)